

こくりゆうだより



12月号

大阪府立桜塚高等学校 2年 加福 菜摘

「本場のクリスマスツリーのクッキーは固くて食べられないそうです。
西洋のクリスマスを描いてみたいと思ったので描きました。」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



フィリピンコミュニティ

クリスマス会

12月16日(日)

14:00~16:00

地域のフィリピン人同士の交流や、
情報交換。

対象:フィリピン人とその家族

持ち物:料理一品持ち寄り

プレゼント交換用のギフト

(大人1000円・子ども500円相当)

定員:先着50名(申込不要)

国流シネマカフェ

ライフ・イズ・ビューティフル

12月22日(土)

17:30~20:00

ナチスの強制収容所に収監されたある
一家の物語を、ユーモアと悲しみを交
錯させて描いた映画。

定員:30名(申込先着順)

参加費:無料

申込:来館・電話受付。



おまつり地球一周クラブ

アイヌを知ろう



12月22日(土)

10:00~12:00



日本の先住民族アイヌの話と、アイヌ
文様のてぬぐい作りを予定。

対象:小・中学生

参加費:300円(要申込・先着15名)

申込:12月18日(火)まで来館・

電話受付。

10月20日（土）

外国人のための防災フェアを開催しました！！

今年に入って立て続けに起こった地震や台風の災害に見舞われ、言葉や文化や経験もちがう外国人住民は災害弱者となり、驚きと困惑を強く感じたようです。このような状況を危惧するとともに、今後の支援のあり方を考えるために、当協会は、豊中市と大阪大学（国際公共政策研究科グローバルリスクソリューションズセンター）との三者共催で、10月20日に豊中人権まちづくりセンター及び轟公園において「外国人のための防災フェア」を開催し、130人が参加しました。

当日の取組みは、防災教室、多言語相談会、環境教室、災害パネル展示、女性と防災のパネル展、けむり体験、炊き出し、野外活動体験等と多彩で幅広いものになりました。長内繁樹豊中市長をはじめ関係者の皆様にもご来場頂き、各取組を体験頂きました。

外国人の皆さんにとっては初めての体験が多く、特に、心肺蘇生法やAEDを使った救急救命法に興味津々な表情と緊張した面持ちで真剣に取り組んでいました。また炊き出しでは、ハラルフードのチキンシチュー（イラン）、豚肉入りフォー（ベトナム）、牛肉と野菜炒め（ペルー）、チキンカレー（ネパール）が調理して出され、非常食のわかめご飯が振舞われました。「けむり体験」ではテント内に充満する煙の中を手探りで歩き、火災時の煙の怖さと避難の方法を知りました。



心肺蘇生法やAEDを使った救急救命講習



火事のけむり体験



学生ボランティアも大活躍



炊き出しには、ハラルに対応した料理もメニューに並びました。準備を行った料理室では、長内市長と和やかな会話と味見で盛り上がりしました。

2018年度 日本語ボランティア養成講座 レポート

第2回 9月27日（土）

第3回 10月6日（土）※公開講座として実施

第4回 10月13日（土）

2018年日本語ボランティア養成講座レポート 講座の第2回～第4回が終了しました。

第2回は、『ボランティアの基本のき』と題して、林寛人さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会職員）から、ボランティアを始めるにあたっての入門的な話を聞きました。「してあげる」の気持ちではなく対等な立場でボランティアに関わること、自由のなかでも責任をもってかかわる、多様性を認め合いながら活動する、などの「ボランティア活動のポイント」が心に残ったという参加者が多かったです。

第3回は、公開講座として『日本“伝統文化”から考える異文化間コミュニケーション』をテーマに、ヨコタ ジェリーさん（大阪大学大学院言語文化研究科教授）からお話をうかがいました。多様な動画や音楽の映像と共に、ヨコタさんの能やJ-POPとの出会いのエピソードを聞いたのち、異なる文化的背景をもつ人に自分の好きなものをどう紹介するか、参加者同士で話し合いました。また、「唐船」という中国と日本の文化の間でゆれる人物を主人公とした能を紹介され、日本の伝統文化を紹介する際に偏りがなければヨコタさん自身も責任をもって考えていきたい、というお話が印象的でした。

第4回は、とよなか国際交流協会の事務局長・山野上隆史より、在住外国人の現状や日本語交流活動のあゆみについてお話を聞いたのち、現役ボランティアの皆さんから各活動についてのプレゼンテーションと交流会がありました。新しいボランティア希望の皆さんからの、率直な疑問や活動についての質問でにぎわいのうちに全4回の講座は終了しました。

11月5日より、新ボランティアの活動がスタートしています。皆さんの今後の活躍が楽しみです。



第2回講師
林寛人さん

第3回公開講座の様子
講師 ヨコタ ジェリーさん



第4回 交流会の様子

「ワイルドソウル(上・下)」 垣根 涼介著／新潮文庫（2009年）



ヘイトスピーチは、個人を見ず、「～国人」というレッテルによって、他者を誹謗する。一方で、「～国人」であることを心の支えにしている人もいる。私たちは、外「国」人差別をなくして、「国」際交流を促進するために、日々努力している。いずれも個人が「～国人」であることを前提にしている。でも、国に捨てられた人々は、どう生きるのか。

1961年後藤一家は、「南米に行けば豊かな暮らしができる」と奨励する政府の移民事業に応募して、農業を営むべくブラジルに移民した。ところが割り当てられた土地は、ジャングルの中の耕作不能地。次々に人が死に、残された子供たちは言葉を忘れ動物状態に退化してゆく。40年後その中から、国に復讐を誓う者が東京に降り立った。どうやって。史上初の文学賞三冠受賞の長編小説。

（協会評議員・窪 誠）

＼Youは何しに国流へ？／ 第14回 センターで活動している人を紹介します☆

私は2001年の秋からホストファミリーとなり、2002年の春からホストファミリーの世話人になりました。今現在ホストファミリーの数は121家族、世話人は11人います。

世話人は、大阪大学や大阪日本語教育センター(JASSO)と打ち合わせをしながら、ホストファミリーと留学生との関係を一つ一つ作り上げていく作業(登録説明会、マッチング、対面式、ニュースレターの発行など)をしています。

また、各種のイベント(ピクニック、ポットラックパーティーなど)の企画、実行もしています。その為、国流へ月に2～3回顔を出しています。

この活動を通じて、ホストファミリーと留学生との関係が上手くいきますよう、お手伝いできたらと思っています。外国人と日本人とが共存する社会の一助となればと・・・。



10月28日(日)にすてっぷホールで留学生とホストファミリーのポットラックパーティーを開催し、101名が参加しました！



ホストファミリー事業
ボランティア兼世話人会

はらだ ちえこ
原田 智永子さん



コラム 外国人相談あれこれ (第48回)

吉嶋かおり (外国人のための多言語相談サービス・相談スタッフ)

事実に基づいた論理的な判断ではなく、気分によって動く政治的、社会的状況が起きています。間違った情報でも意に介さず、個人的な気分や、そこに流れる雰囲気左右されるようなことが公然と表に出るようになってきていることに、私も心を痛めたり、憤ったりしています。

ですが実は、相談では、気分や気持ちこそが重要だと考えています。冷静な思考や判断、正しい情報や理解に基づいた選択というのは、さほど重視していません。なぜなら人は、感情によって行動し、感情によってしか納得のいく選択はできないからです。「いえ、私は正しい情報を理解するようにしているし、それによって冷静に判断するようにしている」と思う方は多いかもしれません。ほとんどの相談者はそう考えていますし、自分がそうありたいと願っていてもいます。でも実は、自分にとって大きく意味のあるテーマであるほど、そこにある「感じ」が自分を左右しているのです。

よくある例をあげてみましょう。ある外国人のお母さんは、子どものことで悩んでいました。子どもは言うことを聞かないし、勉強を全然しなくなっていました。ゲームばかりして、部屋にこもり、受験も目前なのに、もともと悪かった成績はさらに下がっています。あまりにもひどい状況にイライラしたお母さんは、子どもに怒鳴ったり、時には手も出てしまうこともありました。お母さんは必死でした。子どもが将来自立して生きていけるようになるためには、今勉強して学校に行かないといけな。それなのにこの子はどうなるんだろう…。ある相談先では、「怒ったり怒鳴ったりしても子どもは言うことは聞きませんよ、子どもの気持ちを聞いてあげましょう」と言われました。お母さんはそんなことはわかっています。でもできないのです。心配で、不安で、イライラして、仕事で忙しく疲れていて、じっくり子どもに向き合う時間などほとんどないのです。

このお母さんに「落ち着きましょう」は、本当に酷な言葉だと思います。お母さんは、ゆったりと優しい母親でいたいと心から願ってはいるのです。でもできないのは、冷静になれないからではありません。冷静になれないほどにお母さんが感じている気持ちは何でしょうか。その気持ちはどこからくるのでしょうか。その気持ちの背後にあるものは何なのでしょう。苦しんでいるお母さんに必要なものは何でしょうか。

お母さんの気持ちに寄り添い、そこに一緒にいることを通して、お母さんが自分の気持ちを受け止めていけると、その苦しみの底から、自分を悼み、許すような気持ち、そして深い納得、勇気、自信などが生まれてきます。そうやって初めて、「より良い」行動へと進むことができます。心から出てくるものでないと、人は本当には動けないのです。

気分や雰囲気が社会を動かす状況にいて、私は、その人たちが感じているその底にある思いは、疎外や不安、苦難につながるような感情なのではないかと想像しています。そう思いながら、人がつながり、受け止め合えるような小さな一歩を相談で生み出したいと考えています。

【イベント告知】 国流シネマカフェを開催します

年に数回、不定期で開催している「国流シネマカフェ」。今回は名作『ライフ・イズ・ビューティフル』を上映します。

本作の舞台はファシズム政権下のイタリア。幸せに暮らしていたユダヤ系イタリア人のグイド一家は、強制収容所に送り込まれてしまいます。母と引き離され不安がる息子にグイドは「これはゲームなんだ」と嘘をつき、過酷な収容所生活を乗り越えようとします。

ホロコーストという重いテーマを扱いながらも喜劇仕立てで、笑いあり、涙ありの作品です。ぜひお越しください。

日時:2018年12月22日(土) 17:30～20:00

参加費:無料 定員:30名(申込先着順)

場所:とよなか国際交流センター 会議室2ABC



登録グループの活動紹介



No.14 日本語交流サロン

(写真は持ち寄りパーティーの様子)

———インタビュアー(以下、———): 日本語交流サロンはどんな活動をされていますか？

石墨)このサロンは名前のとおり、日本語を第一言語としない人を対象に、日本語での交流をしています。昼間は学校や仕事で、日本語の勉強ができない人たちのそれぞれのニーズに合わせて、日常会話や日本語能力試験に向けての勉強をしたりしています。また、お茶を飲みながら、お互いの文化にふれ合い、いろいろな国の言葉や料理の交流サロンにもなっていて、楽しいひと時を過ごせる場の提供をしています。

先生-生徒の関係ではなく、交流を通してお互いが学びあう活動をしたいと思っています。

———参加者はどれくらい来られますか？

石墨)登録制をとっていないので、毎回の参加者はまちまちです。平均すれば、現在は12名くらいでしょうか。いつものサロンには、ご夫婦や親子で一緒に来られる方たちもいらっしゃいます。また、毎年行う夏と冬の持ち寄りパーティーでは、友人や家族も誘って来られるので、普段より賑やかな雰囲気になります。

———もう20年以上活動されているとのことですが、日本語交流サロンを立ち上げた当時は、今のような活動はなかったということですか？

石墨)当時の日本語クラスは教室型が主流でした。そこで学習してもなかなか実際には上手く使えないことが多くて、習った語彙や文型練習などを復習して、実際に使える場として利用してもらえればいいな…と思ったのが、このサロンを始めたきっかけです。それぞれみんなのニーズに合わせた交流型の日本語クラスとして現在に至っています。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。今回は日本語交流サロンで活動する皆さんに、活動内容や国際交流への思いを伺いました。

上田)時には団体で、昔フィリピンの人たちが誘い合っ
て子どもを連れたグループで来られることもありま
しました。手が足りなくて教室型にしたときもありま
したが…。

———それは何か広報物を見て来られることが多いん
でしょうか？

石墨)特に広報に力を入れてるわけではないのですが、
口コミだったり、ホームページを見た方からの問
い合わせもありますね。来るもの拒まず、去る者
は追わずの気持ちであまり気負わないで、楽し
みながらやってきたので今まで続けてこられたの
だと思います。参加者と一緒に楽しむことを心掛
けています。

上田)こういう交流型なので、私達ボランティアとしても
気軽に取り組みます。

学習者にとっても、いつでも来たいときに来れる
居場所のような日本語クラスもいいのでは。

石墨)どんな活動もそうだと思いますが、グループ内に
何かあったら頼れる人がいるというのはすごく安
心しますね。これからもみんなで仲良く活動して
いきたいと思っています。

【活動についての問い合わせ先】

団体名：日本語交流サロン

TEL：06-6849-7992

Mail：masako@ishizumi.org

活動日時：毎週金曜日 19:30～21:00

(祝祭日・年末年始・夏休み期間はお休み)

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第116号(2018年12月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

